

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

# Yaomania

【ヤオマニア】Vol.20 2017年・夏増刊号

Yaomania

Vol.20

夏増刊号

2017年8月10日発行

発行(社)八尾市観光協会

八尾市北本町2-1

トプラザ20号

☎072199716226

編集140B

定価0円

Printed in Japan

## ザ・河内音頭ライブ

太鼓とギター、名調子に包まれる季節。  
今年はギネスの記録に挑戦!

9.9-10 八尾河内音頭まつりプレビュー  
河内家菊水丸一座の  
グルーブ感に迫る



80秒の映画祭。

アリオ八尾・MOVIX八尾にて  
2017.11.18 SAT 開催!

### やお80映画祭とは

大阪・八尾を盛り上げたいという  
思いから2016年よりスタート  
しました。  
八尾=80(やお)にちなんで、ジャ  
スト80秒の映画作品をプロ・ア  
マ問わず募集している、コンペ  
ティション形式の映画祭です。

### やお映画部門

- ✓ 八尾市をロケ地(オールロケでなくて可)、もしくは内容の一部に八尾の特産物が含まれた作品。
- ✓ 八尾市の魅力が引き出された作品。
  - 上映時間(エンドロール含む)がジャスト80秒の作品
  - 実写(フィクション、ドキュメンタリー)、CG、アニメーション等を問いません。

### フリー映画部門

- ✓ 内容自由
  - 上映時間(エンドロール含む)がジャスト80秒の作品
  - 実写(フィクション、ドキュメンタリー)、CG、アニメーション等を問いません。

グランプリ[各部門より1作品]・賞金8万円

応募締切

2017年10月8日(日)  
消印有効

※詳しくはWEBサイトをご覧ください。

Q やお80 検索

やお80映画祭2017  
Yao 80" film festival

主催

やお80映画祭2017実行委員会

共催

アリオ八尾

後援

八尾市、一般社団法人八尾市観光協会、八尾青年会議所

企画・運営

(株)アール・プランニング



学生たちの輪に混じってしまえば見分けがつかないほど若々しい教授の皆さん！ 学生に負けずバリノリ。下の写真右側は国際学部の首原絵美准教授（国際法）



**飯田千夏さん(左)**  
(大阪経済法科大学国際学部生)

初めて浴衣を着たのでいつもより歩幅が狭くなって歩きにくかったですね。最初は手先に集中すると足のステップがおろそかになって難しかったです。留学生と一緒に楽しめてよかったです。



おばあちゃんが踊ってたのですって興味はあったんです

**西尾 匠さん**  
(大阪経済法科大学学部生)

去年立ち上げたばかりの国際交流サークル初の「KEIHO YUKATA DAY」を開催しました。「浴衣を着られるイベントをやりたい」という台湾人留学生を後押しする形で発起。僕自身、浴衣も河内音頭も初めて。歌詞がいいですよ河内音頭って！ 留学生に日本の風情を感じてもらおうのが目的でしたが、僕たちも改めて日本の魅力、八尾の文化を再認識できる特別な日になりました。

河内音頭は2回踊ったらマスターしたというリズム感はずが、余裕の表情

**ハナさん&アエイナさん**  
(大阪経済法科大学大留学生)

浴衣を着るのは今日が2度目。着心地がいいです。河内音頭は初めてなので、最初はちょっと難しかったです。教えてもらおうとすぐにマスターできました。八尾河内音頭まつりの日はマレーシアに帰国しているので参加できず残念！



## 大学ではインターナショナルに河内音頭！

昨年、国際学部が誕生した大阪経済法科大学。日本に興味を持って学びに来た交換留学生に、昔ながらの「日本の夏」を伝えたい。そんなイベントが7月に開催された。浴衣を着て、露店を歩き、締めには河内音頭の輪。言葉の壁もなんのその。日本の学生だけでなく、初体験だったりして、予想以上の盛り上がりを見せた。

お手本を真似ると、踊れるようになるんですね



音頭人生、地で行ってますよ

**島本 守さん**  
(大阪市在住)

若い頃、民謡をやっていたから踊りも唄もよく知っているけど、とくに河内音頭は好きやねん。天王寺から来てるんやけど、わし79歳でっせ。八尾の練習会にはほとんど参加しています。当日、わしの踊り、見たってや〜。

後ろは八尾在住の三木次郎さん。お二人は河内音頭教室で知り合い、友人になったとか

流し節正調河内音頭保存会(P4)が伝統芸の継承にこだわるなら、こちらの新河内音頭はエネルギーで進取の系譜をたどる



好きこそものの上手なれ、で40年です

**山崎美恵さん**  
(かわち撫子会)

舞踊から始まって、河内音頭も踊るようになって40年以上。長く続けて来られたのは、ただただ好きという気持ちだけ。うまく踊るコツは、ちょっとした所作を大切にすることかな。とはいえ気負う必要はなし。髪や着付けも自己流で。楽しむ気持ちが大切ですよ。

河内音頭って、落ち着いたダンスですね



上手やな、と  
思う人の後ついて  
真似したらええんよ

**西田栄映さん**  
(栄会)

ちっちゃい頃から何かしら踊ってきましたが、河内音頭にハマったきっかけは12〜13年前の盆踊り。音頭や太鼓に合わせて踊るんがうれしいね。おかげで楽しい人生、悩む余地のない毎日を過ごしております。本番はもっとパツパツ厚化粧で、髪飾りもいっぱい付けて、チャーミングにするで(笑)。

**村中 克さん**  
(八尾商工会議所青年部会長)

八尾商工会議所青年部では、八尾河内音頭まつりで「八尾うまいもんグランプリ」や「ジュニエコ(小学生の小商い)」の企画運営など、後方支援的な取り組みを行ってききましたが、今年はギネスに挑戦(P14)ということで、私たちが前に出ます。八尾が世界的に有名になれば、商業が活性化し、地域貢献につながりますからね。子どもの頃に踊っていたので、数十年ぶりの河内音頭は新鮮ですが、意外に体力がいるんですね。「間違えずに成功させる」を目標に踊りますよ。

# なにしろ踊り好きならなにもので。

太鼓が唸り、ギターが響き、音頭取りが今日も詠う。これに体が自然に反応するのは世の常。年齢も性別も国籍も超えて、櫓の周りには今日も踊り好きがわさわさ集まる。何かと大変な世の中だけど、しんどい時こそ皆で河内音頭ですよ……と踊り手の皆さんも口をそろえて言っています。

取材 文 西村由起子 きむあつこ 中島淳(以上写真も) 写真 田村和成

商売繁盛！を踊りで支えます

(株)新進化学の社長。櫓ブラシの柄などに用いるプラスチック射出成形全般を営む。「青年部の会員150人のうち100人の動員を目指し、集まる機会があるたびに練習しています」。振りもお見事

## 「世界の一員になりたい、盆踊り素人大学生、練習会参加の日。」

40回目を迎える八尾河内音頭まつり。今年は「最多人数で踊る盆踊り、ギネス世界一記録に挑戦する。盆踊りの参加者全員が浴衣を着用し、5分間同じ踊り方をするのが挑戦の条件だ。河内音頭初体験・自他ともに認めるロボットダンサーの私と、中学時代からの相棒である友人（彼女の必須アイテムはフラフープとプロテイン）は、そんな世界一挑戦の一員になるべく、高校のジャージを引っ張り出し、志紀コミュニティセンターで行われた練習会に参加した。

教わるのは、ギネス挑戦時に踊る河内音頭の基本的な型である「八尾正調河内音頭踊り」。河内音頭と言えば、びよんびよん軽やかなステップをイメージしていた私たちは一安心。踊り手さん4人が先生となり、初参加の人を中心に付きっきりで指導してくれる。ひととおりの動きを教えてもらったら「習うより慣れろ」。音楽に合わせて輪になって踊り、体に覚えさせていく。が、そこは生粋のロボットダンサー。わかっていても、なかなか体がこんがらがってついでない！

「こうやったっけ?」「ちゃう! 手は上げたままや!」休憩中も他の参加者の皆さんを巻き込んでフリを確認。

「腕が痛くなってやっと踊ったって言えるんやで」と、先生の言葉に「さすがやなあ」と感嘆し、落ちこぼれ生徒2名も必死モード突入。ラスト5分の一本勝負を終えたあと、そんな先生からの「できたやん」に思わず2人、ニンマリ顔を見合わせた。

「♪人が好き好き八尾が好き〜」ギネス用につくられた歌詞は妙に耳に残り、帰り道はコンビで大合唱。じんわり残った腕の痛みがなんとも誇らしい。ギネス挑戦まではあと1カ月だ。

取材・文=中井咲穂(近畿大学4年生)



「みーぎ、ひだり、みーぎ、下ろすやで!」せ、先生(西田栄咲さん・P2)スゴイ力



優美な舞。アフロの人と同一人物だとは!? 8.20(日)、27(日)、9.16(土)には国立文楽劇場に出演

一つひとつの型がお見事。「上方舞の公演の合間を縫って、今年も河内音頭に行きますよ」

### 山村若静紀さん (日本舞踊家)

舞鶴から大学(大阪芸大)に入った時に移り住んだのが富田林。昔から踊りが好きだったので、河内の盆踊りにもすぐに馴染みました。故郷では「舞鶴音頭」や「福知山音頭」などのゆっくりした定型的な踊りが主流ですが、河内音頭はポピュラーで、とんだり跳ねたり走ったりとアレンジし放題。それでハマってしまいました。地元のお師匠さんやおばちゃんたちが世話好きで優しいのですっかり仲良くなり、会えば盆踊りの情報交換をしていました。八尾に行きはじめたのも学生時代です。盆踊りスケジュールが載っている『やお市政だより』を手に入れて、1日2〜3カ所の会場を回っていました。常光寺はその頃から「聖地」ですね。櫓に上がると燃えるのは河内家菊水丸さん。井筒家小石丸さんも上手いし、亡くなった鉄砲光三郎さんもよかったです。色気は音頭取りに大事な要素ですね。

自然が厳しい北陸文化圏の舞鶴に比べると、大阪は湿度があっけなくあります。上方舞は大阪の船場で育まれた芸事で「はんなりもっちゃり」と言いますね。そして河内はどろっとこつり。クセになる面白さがあります。そうそう、八尾河内音頭まつりといえば、5年前にレインボーアフロのカツラで踊っていたら、『やお市政だより』の表紙に出してしまいました(笑)。



『やお市政だより』2012年10月号表紙より。「弟子たちに、来年はみんなでアフロで行こうよ」って言ったら断られました(笑)



「舞」は見せるもの、河内音頭は自分が楽しむもの

ゆっくり、優雅に、しなやかに!



毎月第3土曜、常光寺内にある稽古場で行われる練習風景。30人以上の会員ほぼ全員参加という出席率の高さがスゴイ



正装ではこんな艶やかな感じに

### 山本雅美さん (流し節正調河内音頭保存会)

ひと口に河内音頭といっても今はいろんな流派がありますが、古くから常光寺に伝承されてきた流し節正調河内音頭がその原型。正統を貫き、あえてアレンジはしませんね。テンポもよそと比べてゆったり、しなやかに踊ります。河内音頭まつりの当日も、音頭と息の合った踊りを披露しますので、ぜひ一緒に!



### 菊地俊雄さん (東大阪市在住)

この格好でもう6〜7年続いていますね。河内長野仕込みの「まめかち」をアレンジした踊りで、団扇ではなく、自分でペイントした扇子を使って踊るので、カメラを向けられることも多いですよ。15歳で愛媛の大洲から大阪に来て、その後はあちこちに移り住んだけどずっと河内。音頭は30代の頃に知りましたが、当時は大して興味がなかった。ところが60を過ぎてからご近所に踊り仲間が出来たのがきっかけで、今では年140回以上踊りに行っています。もう72歳だし、お酒もタバコもやりません。趣味はいろいろあるけど、長続きしない(笑)。そんな中で河内音頭は別格です。若い人たちも一緒に盛り上げてほしいですね。

服は、娘にイメージだけ伝えて買ってきてもらってます

昨年の八尾河内音頭まつりにて、藤原五月枝(さつえ)さんとペアで踊る。一見、強面だけど、シャイで上機嫌な人。白が似合うように「山で日焼けしてます」とはさすが!



### 山内和子さん (御菓子処 麒麟堂)

地方から八尾に嫁いできたので、こちらの盆踊りは知らなかったんですが、地元の文化を継承する「太田ジャイナ音頭保存会」に興味を持ち、メンバーの一員として頑張っています。練習中は体に痛みとか疲れがあっても夢中になるので、終わったあとはすっきりしますね。太田ジャイナ音頭は河内音頭と違ってゆったりした旋律が特徴で、「ナンジャイナ」の合いの手が入るんです。今年の「ギネスに挑戦」では、私たちが河内音頭の手踊りをやります。腕の高さを揃えてキレイに踊るのを目標に、5分間集中します。

昨年八尾河内音頭まつりでグランプリを受賞した「太田ジャイナ音頭保存会」のみなさん。後列右から2人目が山内さん

気合いの入ったジャイナを観てください



銀行あげてギネスにチャレンジします

センターに部長。左右に小島さん、森田さん。みな銀行マンらしく白いシャツでピシッと

今宵も酔わせ、踊らせ、唸らせて……

# 河内家菊水丸一座の「グルーヴ感」に迫る。

「八尾の魅力大使」でもある河内家菊水丸さんは、本誌読者が若かった（or生まれてなかった）頃から櫓に立ち、河内音頭を全国に広め、テレビやラジオでも活躍してきた日本で最もメジャーな音頭取りである。そして音頭取りの菊水丸さん、ギターの石田雄さん、太鼓の三条史郎さんが「三位一体」となって奏でる、物語とサウンドの力は他の追随を許さない。今回は二座の3人に、その「グルーヴ」の秘密を聞きました。

取材・文・大越裕 写真・田村和成



2017年6月25日の「出陣式パーティー」にて(シェラトン都ホテル大阪)

## 練習なし、終始アドリブで。

**石田** 他のジャンルの音楽はみな譜面がありますけど、河内音頭のギターは完全にアドリブなんです。3人のアドリブで生まれたグルーヴが、踊っているお客さんに伝わって、すごいエネルギーとなって返ってくる。それが演奏していて一番楽しいですね。

**三条** 僕はいつも菊水丸さんの語りと節を聞きながら、物語の情景を考えてます。悲しいシーンなら悲しそうに、楽しい場面より楽しくなるよう、お客さんがいちばん気持ちよく聞けるリズムを考えて叩いています。事前に「今日はこちら叩こう」と決めて打つことは一



切ありません。踊っているお客さんの様子や表情を見てスピードを変えたりもします。あと、演奏中はよく石田さんの左手を見ますね。ギターのフレットのどの辺を弾いているかで、あと何拍で調子が変わるか、タイミングを判断するんです。

**石田** ギターで歌の邪魔をしてはいけないので、菊水丸さんの横顔を見ながら次の展開を常に予想しています。「かなり汗をかいてきたから、そろそろ手ぬぐいで顔を拭くな」とかね（笑）。それと僕も史郎さんの左手を見ていますね。ふつうの音楽は4分の4拍子とか4分の2の単純なリズムですが、河内音頭は4分の6から4分の8に行つ

たりと非常に複雑。「究極のフリージャズ」とも言えるような音楽なんです。**菊水丸** 我々のように完全にアドリブでやっている音頭取りは他にいないと思います。集まって練習したりも一切ありません。その日にやるネタも舞台上がってから決めますし、節回しもセリフも毎回違いますが、そんな風にも自由自在に演奏できるようにするための。は、このトリオになってからですね。



今回は[河内音頭記念館]の第51回河内音頭セミナー「菊水丸一座盆踊りツアーの展望」の大部分を「Yaomaniaの公開取材」に割いていただき、関係者の皆様に感謝。和気満々、爆笑連発の楽しい夕べでした(左から二番目が筆者)



## 相互リスペクトが生むグルーヴ。

**石田** 菊水丸さんとは34年間、夏の間は毎年日本中を旅して、嫁はんの1.5倍ぐらいの時間を過ごしてきましたからね。なんというか……落ち着きませんね。楽屋に他の芸人さんがいると気が遣いますが、菊水丸さんだと安心。

**菊水丸** それだけかいな（笑）。石田さんは河内音頭るときは一ギタリストですが、CM音楽の世界ではすごい有名なです。タマホーム、どら焼きの茜丸、

日本フルハップ……関西の人なら誰でも知ってる曲を作ってきた人。一方で櫓に上がってからギターを忘れてるのに気づいたりして（笑）、抜けてるところがあるのが魅力ですね。僕より年上の石田さんの器の大きさのおかげで、自由にやれている気がします。

**三条** 僕は歌舞伎や能楽、狂言といった邦楽が好きなんですけど、その辺の古典芸能に対する趣味嗜好が、菊水丸さんと合いますね。二人とも落語なら、六代目三遊亭圓生師匠が好きですし、価値観を共有できる人だな、と。

**石田** 史郎さんの古典芸能に対する知識の深さと広さは半端じゃないから。**菊水丸** ぜんぜん石田さんの答えと違うな（笑）。「価値観の共有」ですよ。これだけそれぞれ違う個性があるから、三位一体の演奏を長く続けられるんでしょうね。5年前に私は甲状腺がんという大きな病気を患ったのですが、完全復活して今年が節目となる5年目です。夏をこの3人で駆け抜けたら、その先には見えない風景が待っているんじゃないかと、本当に感じています。

## かわちや・きくすいまる

伝統河内音頭継承者。1963年八尾市生まれ。9歳で父・河内屋菊水に入門。80年「河内家菊水丸」の名で初舞台。84年「新聞読み」を復活させ、世相・事件を題材にした作品を200作以上発表。2007年、前人未到の9000櫓を達成。09年秋からは古調の河内音頭の保存伝承に専念。著書に自らの少年時代を振り返った小説『音頭ボーイ』（ヨシモトブックス）。[河内音頭記念館]の館長でもある。CD制作はスタジオですべて「一発録り」が身上で、最新アルバムは『河内家菊水丸 河内音頭秘蔵コレクション(10)』



## こんなスゴすぎる内容でいいんでしょうか。マンスリー開催の「河内音頭セミナー」。

[河内音頭記念館]の同セミナーは各界の著名人・専門家との対談や生音頭の披露、ときには技術論を語るなど、毎回趣向をこらしながら河内音頭の神髄に迫る。「近づく大相撲春場所 河内音頭に読み込まれた力士伝」では相撲部屋の親方を招き、大相撲のシークレットネタが明かされたり、「諸先輩方の誰もやっていない」という『河内十人斬り』全編・通し読み』として4時間20分を大熱唱したりした回もある。

節目の50回目は「河内家菊水丸 盆踊りツアー出陣 前夜祭 ミニ独演会」と題し、菊水丸一座による「河内十人斬り〜お縫の不義」「元禄縁乱 大石書き損じ掛け軸」の二席を。太鼓とギターの生音頭は迫力満点で、「イヤコラセードッコイセ」のこなれた掛け声が「聖地」にふさわしい一体感を漂わせた。「セミナーのネタは尽きません。河内音頭の盛んな八尾でやることに意味があると思うので、気軽にお越しください」と菊水丸さん。

取材・文・写真=きむあつこ



[河内音頭記念館]の2階。セミナーは記念館の会員(登録無料)向けだが、一般参加も可。先着30名。参加費無料!

●八尾市本町7-12-24  
☎072-995-1555  
10:00~19:00 無休



## さんじょう・しろう

和太鼓奏者。1964年岸和田市生まれ。以前は他の流派で河内音頭の太鼓を叩いていたが、10年前に「この人に叩いてもらいたい」と菊水丸さんがスカウト。「大リーグに入った感覚だった」。以降、毎年菊水丸一座からアルバムが出ることになる。

# 「せまる本番」夏の主役たち。

取材・文：きむあつこ 写真：内池秀人 西村由起子(写真も)

この先、9月上旬の八尾河内音頭まつりまでは、毎日のようにどこかで盆踊りの櫓が生まれ、磨いてきた「芸」をその場で初めて披露する人が必ずいる。夏になれば何十年何百年続いてきたことだけど、新しい「顔」のデビュ―はやはり楽しみだ。

## こども音頭大使、仕上がりまりました！

### 河内音頭こども音頭とり講座(最終回)

八尾河内音頭まつりをはじめ、各地の盆踊り会場の櫓に出演することも音頭大使。八尾市の「河内音頭こども音頭とり講座(全8回)」に応募した子どもたちが、まったくのゼロから河内音頭のイロハを学んだ末にデビューする。講座は河内音頭を「聴いて」「覚えて」「唄う」ことを目的とするが、最終日に訪ねると、どの子どもも堂々と自分が選んだ外題を元気に詠み、中には余裕の表情で振り付けする場面も……見事に「仕上がり」ている！講師陣の一人で、八尾本場河内音頭連盟会長の美道家肇師匠は「毎年一人はやっぱりやな目立ちたがり屋がおるんですけど、今年の子は真面目でおとなしい。でもシャイでおとなしい子が舞台上立つと人間が変わるからね(笑)。豊かな表現力は僕らも勉強になります。子どもの成長ぶりをどうぞ観てあげてください。」



上/音頭取りは前を向き、お囃子の4人も大きく口が開いて「仕上がり感」 左上/会長(写真)はじめ師匠たちの「櫓に立つ子は風邪をひかないように。歌詞もしっかり覚えること」も肝に銘じたようで 左下/「元氣な河内音頭を披露します！」こども音頭大使全員集合。目にチカラがあるな。後段(左から)安田欣司さん、美道家肇師匠、久乃家勝春師匠



## 「音頭取り体験」はPR大使に不可欠!?

### 安田欣司さんの音頭取り特訓

オーバーリアクションと声の大きさが特徴で、今年5期連続の八尾河内音頭まつりのPR大使を務める安田欣司さんは「河内音頭こども音頭とり講座」で特訓中だ。「踊りも歌も苦手なので冷や汗の連続ですわ(笑)」。しかし表情は真剣のそのもの。そのせいか、安田さんの番になると子どもたちのお囃子が一段と元気になるのは仲間意識の表れかも。「ある練習会でベテランの師匠が音頭を詠んでいるときに、付き添いに来ていた児童がお囃子を一緒に歌ったんです。すると会場のおばあちゃんやが「私も」と言い出して一席披露していました。河内音頭は人をくっつけて増強にさせてしまうおもしろい文化。世界記録の挑戦にあなたもぜひ！」と八尾河内音頭まつりも忘れずにPRしていたが、安田さんが櫓で「一席詠む」日が近いという話かも!?

右/J:COMチャンネルの「ふわっと…欣様-What? KIN-SAMA-」で活躍する安田さん 左/「この夏、僕も櫓に立てるかどうか、子どもたちが最大のライバルです(笑)」たしかに真剣そのもの



## 練習がなくとも、音頭を口ずさむ日々。常光寺で修行中、竹田英夫さんの場合

「流し節正調河内音頭保存会」は毎年12月から2月までは活動休止するが、残り9カ月はほぼ毎週、土曜になると常光寺境内にある河内音頭稽古場で練習会を行う。音頭取りが集まり、夏の本番に向けてお囃子と太鼓も持ち回り



上/左端のお囃子が竹田さん。河内音頭はどれも一席15分以上あるため、歌詞を覚えるだけでもひと苦労 下/前列右端は住職・片岡英俊さん

しながら。達者な節回しを披露するベテラン勢に交じって懸命な姿を見せる竹田さんは、地元の消防団に所属し、地域に根ざした活動に従事するうち「もつと地域貢献がしたい」と感じ、音頭取りだった祖父・辰次郎さんへの憧れもあって4年前に練習会へ参加した。「まだまだ諸先輩方を真似るのがやっと。舞台上上がるたび緊張します」。4年が経った今でも「習うより慣れろ」の精神で修行中だ。昨年はお囃子として参加した八尾河内音頭まつり、今年はきつとこれまで以上に盛り上げてくれるはずだ。

## 生徒のダンサーたちと一緒に河内音頭も踊ってきたビッグ・ママ。

来年で設立10周年を迎える八尾市ダンス協会の設立に尽力し、今も会長を務める岩切邦子さん。八尾にダンススクールが一つもない頃から踊り続けて40年以上。自身の「クニ・ダンスコレクション」では3歳から70代まで、幅広い層に指導を行ってきた。エアロビクス、ヨガ、太極拳、ヒップホップ、何でも挑戦してたり着いたのがフリースタイルのジャズダンス。「一生現役」の言葉通り、今なおダンスの向上を目指す。「ビート感は違うけど、河内音頭もダンスも曲に合わせて踊るのは同じ。まずは曲をよく聴いて好きになることが原点。生演奏に合わせてるのは難しいけどチャレンジするのが楽しいです」。八尾河内音頭まつりでは、弟子や協会員と共に何度もパレードや河内音頭グランプリに出場。「当日は楽しみながらギネスに挑戦してみたい」と背中を押す。



右/岩切邦子さん 左/八尾河内音頭まつりに参加予定のキッズたちと、娘の多恵さん(左端)

## 八尾の河内音頭盆踊りと練習会

- 太田地区盆踊り大会 8.12(土)18:00～ 太田八幡宮
- 納涼西郡盆踊り大会 8.12(土)19:00～ 幸第2公園
- 慧灯大師盆踊り大会 8.13(日)18:30～21:00 恵光寺境内
- 白百合こども会盆おどり大会 8.19(土)19:00～ 老原第2公園
- 恩智青年団納涼盆踊り 8.19(土)・20日(日)19:00～ 天王の森
- 河内音頭やおフェスタ 8.20(日)13:00～ プリズムホール
- 八尾地藏盆踊り 8.23(水)・24(木)19:00～ 常光寺境内
- 八尾正調河内音頭踊り練習会 8.31(木)13:00～ 八尾市立くらし学習館
- 第6回八尾市民納涼大会 9.2(土)19:00～ ホームセンターコーナン外環八尾山本店駐車場
- 西山本八幡神社奉賛会盆踊り大会 9.2(土)・3(日)19:00～ 八幡神社
- 第40回八尾河内音頭まつり 9.9(土)・10(日) 10:00～20:30 久宝寺緑地



日本の定番、太閤サクセス秘話。

# 【豊臣秀吉 里帰り】

とよとみひでよしさとがえり

世代を超えて人気ある武将を詠む外題も。太閤にまで登り詰めた秀吉は、300人の大名と千頭の馬を従えて、金の御所車で里帰り。尾張国の中村で探したるは、幼い頃に世話になったおすぎ婆さん。腹を減らして泣いていた遠い昔、あかぎれた手で食わしてくれた飯の味、一生忘れはしない……と秀吉は心づくしの恩返しをするのだ。太閤の人情がしみじみ伝わる。



「男の友情」は時空を超えて。

# 【神崎与五郎 東下り】

かんざきよごろうあずまくだり

赤穂浪士を詠む「義士もの」、も人気で多くの外題がある。たとえば、与五郎こと神崎則休（のりやす）を詠む「神崎与五郎東下り」。箱根の茶屋でヤクザ者の馬子・丑五郎に絡まれたが、与五郎は刀を抜かずに、騒動を避けるために詫言証文まで書く。そして赤穂浪士の討ち入り後、あの弥五郎も義士であったと知った丑五郎、己を恥じてすっぱりと頭を剃り、死ぬまで墓守をしたという泣けるストーリーだ。

見たか! 紀文のオレンジ大作戦。

# 【紀伊國屋 文左衛門】

きのくにやぶんざえもん

紀州が生んだ快男児・紀伊國屋文左衛門はおめでたいハレの外題として知られている。頭に三角くりつけ、背に墨で書くのは「南無阿弥陀佛」。文左衛門は70日間のシケを乗り越え、和歌浦から江戸に8万籠のみかんを命がけで運び、百万両の富を築くのだ。この外題を詠むときは、音頭取りの声も晴れ晴れと響くようである。

あばれ太鼓に秘めた「やせ我慢」。

# 【無法松の 一生】

むほうまつのいっしょう

映画や舞台、歌謡曲でもおなじみ、小倉生まれの玄海育ち、荒くれ者の車夫・松こと富島松五郎は、河内音頭でも人気だ。ある日、木から落ちて足を骨折した少年・敏雄を助けて送り届けると、そこは陸軍大尉・吉岡の家。吉岡の妻・良子に松は一目惚れするが、その思いをぐっと胸に秘めて吉岡家を守り通し、その一生を終える。恋心を人情に変えた松の生きざまに、目頭を熱くするお父さん続出だ。

悲恋、のちハッピー・アイランド。

# 【佐渡情話】

さどじょうわ

こちらは一途な女心を詠む外題。舞台は佐渡島、島の漁師の娘・お光は、越後国・柏崎の吾作と出会い恋に落ちる。「必ず戻る」と島を去った吾作を待ちわびた。お光は、寂しさのあまり気が触れてしまう。ようやく佐渡に戻った吾作が見たのは、お光の変わり果てた姿。しかし、吾作は献身的に看病。そのかいあって、お光は回復し一緒にいるのだった。愛の力は何より強いという、ロマンチックな外題である。

みなのご郷、まとめて詠みます。

# 【夢の民謡 お国めぐり】

ゆめのみんようおくにめぐり

河内音頭の「雑食性」、を顕著に現す外題のひとつ。お国自慢の民謡を、北は雪国・北海道のソーラン節、追分節から、リングで名高い青森のじょんがら節……と、各地を旅するように名所名物を詠み、民謡の一節を唄いつつめぐる。踊りながら、時間も空間も越えて自由に旅する気持ちになれる楽しい外題だ。沖縄まで行くと、海を渡ってジャズにマンボにチャチャチャ!と発展する、海外旅行バージョンも。



## 河内音頭の外題八選



「惨殺」に喝采をおくる面白さ。

# 【河内 十人斬り】

かわちじゅうにんざり

明治26年（1893）に大阪南東部の金剛山麓で本当に起きた凄惨な事件を詠む。犯人たる主人公は、博打打ちの城戸熊太郎とその舎弟・谷弥五郎。妻・おぬいを寝取り、借金を踏み倒した村の顔役・松永傳次郎・寅次郎兄弟に半殺しの目に遭わされて、熊太郎は仕返しを計画。自らの墓まで用意し、捨て身の覚悟で松永一家に殴り込んで十一人を殺害した。センセーショナルな事件は、125年後の現在も、「男持つなら熊太郎弥五郎、十人殺して名を残す」と詠み継がれている。

ハリウッド映画顔負けの冒険活劇。

# 【悪名】

あくみょう

「河内の暴れ者、こと八尾の朝吉を描いた今東光の小説、勝新太郎主演の映画『悪名』を元にした外題。朝吉は盆踊りの夜に人妻と駆け落ち。ところが、ヒモ暮らしに飽きて河内に戻り、今度は遊郭で出会った美女・琴糸に惚れて足抜けに奔走する。色気あり、ケンカも博打も強く、男にも惚れられた朝吉。モデルとなったのは、八尾に実在したある人物だと言われている。

「河内十人斬り」「悪名」などは、誰もが知る代表的な物語。ただし同じ外題であっても、音頭取りによって詠まれ方は違う。外題の聴き比べという、河内ならではの楽しみかたも試してほしい。踊りながら「こんな男やつたらついていてもいいわ」とお母さん。腕組みして聴き惚れて「これが男つちゅうもんや、なあ」とお父さん。音頭取りにノセられて、櫓のそばで回る子どもたち。真夏の夜、河内音頭の一節に、誰もが一夜の幻を見るのである。

河内音頭は、ダンスミュージックであると同時に「語り芸」——だからこそ、「曲唄う」ではなく「席詠む」という。詠まれるのは、「外題」と呼ばれる、戦あり侠気あり旅あり恋あり……古今東西の物語。何がこんなに私たちを惹きつけるのか、音頭取りの師匠に訊いてみました。

外題解説 天龍小若丸 八尾本場河内音頭連盟副会長 取材 文 杉本恭子 イラスト 辻井タカヒロ

同じ外題でも、半ばのええところを先に唄うたり、序盤を真ん中に持ていつたり、場に合わせてアレンジします。お客さんの顔を見て、ツカミになる枕もその都度考えてやりますね。音頭取るときは、踊り手さんの足元を見るんです。もうちょっと足を上げたらかと思うたら、リズムを変えて盛り上げたりね。踊らせるのが音頭取りの仕事ですから。



てんりゅう・こわかまる 昭和43年（1968）、河内音頭「日乃会」に入門。「美好会」への移籍を経て、平成元年（1989）自らの「天龍会」を結成する。同年5月には日本コロムビアより「紀伊国屋文左衛門」「臉の母」をリリース。平成18年（2006）メインレコードに移籍し、演歌「花の天龍節、夢街道」をレコーディング。現在も各地の盆踊り櫓にて活躍。八尾本場河内音頭連盟副会長。

その一夜だけのロマン。だからこそ「外題」は輝く。

詠みたいテーマがあれば、いかようにも詠んでみせるのが音頭取り。物語の筋を伝えながら、敵も味方も演じわける「語り芸」の達人だ。音頭取りがその気になれば、今朝の新聞、千年前の絵巻からでも外題は生まれる。また世界の風物を詠み込み、各地の音楽も取り込んでいくしたたかな雑食性は、河内音頭の類まれな特徴のひとつだ。



きつちり結び上げた髪は浴衣によう似合いますすなわ

「文金高島田も店で結いましたよ」と懐かしがる貞子さん 072-922-5697(シミズ美容室)

### 髪結いはまかせろ 清水貞子さん (シミズ美容室)

長瀬川の「久宝寺船着場」付近で約1世紀、親子三代にわたる老舗の二代目・貞さんはアップの髪結いを得意とする超ベテランの美容師さん。「日本髪のものすごく上手な師匠に仕込まれ、独身時代は難波新地で水商売の女性の髪を結っていました。ここに嫁いでからは盆踊りの時期と大晦日はてからこ舞いで、河内音頭の踊り手さんの髪結いはたくさんやりましたよ。三代目の徳美さんは「私は外で修業した身ですが、母の仕事はすごいなと改めて思いました」。本来の日本髪には型くずれさせない技があり、数日は持つらしい。貞さんは「アップの髪結いをすれば髪が乱れず、なんぼでも河内音頭を踊れるのと違いますか(笑)」

### 映画はまかせろ 今辻貴詩さん (八尾河内音頭まつり実行委員会)

企画制作会社を営む今辻さんが実行委員会に参加したのは10年前のこと。「生まれ育ち、今も住んでいるので八尾にはすごく愛着があるんです。まつりの成功はもちろん、歴史と伝統ある河内音頭の素晴らしいさをどのように発信すればいいか、仕事で培ったノウハウが生かせられたら」と熱い気持ちを謙虚に語る。そんな今辻さんが他方で手がけているのが、80秒の映像で八尾を盛り上げる「やお80」映画祭だ。プロ・アマ問わず作品を募集中で、10月8日を締め切りにしたのは河内音頭も題材に盛り込んでほしいから。「八尾の魅力語る上で河内音頭は外せません。スマホでも撮影・編集ができるので、あなたの八尾愛を作品にしてみてください」

「最近ようやく踊れるようになりました。踊りの輪に入ると楽しい!」  
[やお80]映画祭の詳細は<http://yao80.jp/>まで(P15にも掲載)



河内音頭の映像で、すごいアーティストが生まれるかも

### オンエアはまかせろ 藤井加奈子さん (FMちゃお 業務部制作室)

毎年、河内音頭まつり当日に特集番組を放送するFMちゃお。今年も盛り上がる現場の様子をリアルタイムで届ける予定だ。そんな同番組で昨年メンバーソナリティを務めたのが八尾市出身の藤井さん。「この時期、仕事であちこちの盆踊り会場に行かさせていただきますが、各地で河内音頭の根強いファンに遭遇します。舞台や櫓に演者が立つ“生演奏”は他の会場では珍しく、八尾ならでは! みなさん、9月の八尾河内音頭まつりで締めくくるの楽しみにされています」

今年は何んといっても「ギネスに挑戦」という目玉が。「八尾の人にとって河内音頭は一つのコミュニケーションツール。音が鳴り出すと人の輪ができて、自然と手足が動く。ちゃんと踊れなくてもリズムが体に刻み込まれていて。地域が一つになれる自慢の河内音頭を、世界に知ってもらおうチャンスですよ!」

河内音頭のPRパネルを背景に。浴衣姿がきまった!

## 「関係者」です。私も河内音頭の

河内音頭は音頭取りと太鼓、ギターだけでは成り立たない。さまざまな裏方が踊り手の見えないところで奮闘しているのだ。今年で40回、久宝寺緑地で開催される八尾河内音頭まつりは、こんな人たちが支えているのでした。  
取材文:きむあつこ(写真も) 西村由起子(写真も) 写真:内池秀人



世界の夏を盛り上げましょう

京山幸枝若を聴きながら書いてます

八尾市庁舎前、ご存じ河内音頭の銅像前で見事なデュエット!

### PRはまかせろ 松本京菜さん (八尾河内音頭まつりPR大使・アリオ八尾イメージガール)

大学に通いながら女優をめざして演技を勉強中の松本さんは、PR大使2年目の八尾っ子で、小さい頃から河内音頭に慣れ親しんできた。昨年は責任感で緊張していたが、今年は自分がまず楽しむことを念頭に、周りに魅力を伝えたいと張り切っている。「SNSで情報を拡散させたり、FMちゃおの「ワンプレート★アリオ」でPRしたりと、若い人たちにも河内音頭のすばらしさを知ってほしいと思います。揃いの浴衣できっちり踊る女性陣や独創的なコスチュームで弾けている集団とか、みなさん思い思いに楽しんでおられますね。河内音頭は世界一楽しい夏を演出してくれるイベントではないでしょうか。久宝寺緑地でお待ちしています!」

「とくに今年のデザインはええ感じですよ。男女兼用、S~4L、黒・ワインレッド・白の3色。1,900円 072-922-4781(タケヒロヤ)」



夏のユニフォームといえは、これ!

### 書はまかせろ 小川慧水さん (書道家)

ご出身の愛知県から八尾に移り住んだのは50年前。そのとき趣味としてはじめたのが書道で、85歳の今も書と水墨画の専門家として活躍中だ。「楽しいから続けてこられたし、上達したんでしょな」とさりと。八尾河内音頭まつり関係のうちわやTシャツ、会場に掲げる看板の毛筆は第37回からすべて小川さんの手による。豪快で豊かな筆さばりがまつりに華を添えている。「昔の京山幸枝若のテーマを聴きながら、河内音頭をイメージして書いています。心がウキウキしてくるのでそんな躍動感を書いて表現できたらいいなと思いました。まつりの“り”が流れるように伸びているのは踊る人の流れを表しているとか……たしかに!



「妻は仲間と毎年踊っていますが、私はさっぱりあきません(笑)」

### 音頭伝承はまかせろ 井上恵理子さん (プリズムホール総合企画事業班)

八尾市の伝統文化継承事業「河内音頭こども音頭とり講座」は春夏に集中して行われるが、その時期が終わると途切れてしまうため、通年学べる取り組みとしてプリズムホールでは「子ども河内音頭講座」を開催。ここではある程度歌える子は鳴り物(太鼓、ギター、キーボード)にもチャレンジ可。一流の師匠陣による指導と半年に1回の発表の場が刺激になるのか、成長の著しいこと。「歌の上手な子が集まってくるとはいえ、修得の早さにびっくり。今の子どもたちにおじさんが歌う音頭は馴染むんだらうかと心配しましたが、八尾の子どもは河内音頭が好きなんです。こんなすごい体験ができるのは一生の宝物、次の世代に広がってほしい」

「音頭を通して子どもからおじさんまで、いろいろな人がつながれますね」。プリズムホールで8.20(日)13時「河内音頭やおフェスタ」開催。本場八尾の音頭取りの競演、子どもたちの演奏・踊りも。入場無料



人と人を結ぶ八尾最強の芸能です

### お囃子はまかせろ 西川ゆきさん (河内音頭 美好家会)

祖父の初代・美好家肇さんが音頭を詠んだのは10歳の時。彼女のお囃子デビューはさらに早い。「近所の小学校で行われていた河内音頭のお祭りか何か。気が付いたら家を飛び出して舞台上上がり、友記が取って代わってお囃子を始めたんですよ」と母の淳子さん。音頭取りの祖父に、太鼓の父(現・美好家肇さん)、お囃子の娘。突然のデビュー以来、祖父の公演について回る。「櫓を回れば露店があったり、地域の方が『かわいいね』っておひねりをくださったり、子どもの頃はそっち目当てだったかも」。今では「やっぱりゆきちゃんのお囃子が最高やね、と言われるのがうれしい。歌い手さんによってキーも音階も違う河内音頭。それぞれに合わせるのがお囃子の難しさ。音頭取り、太鼓やギター、そしてお囃子が三位一体となったときの高揚感。踊り手さんの足並みもきれいに揃うし、観客にも演者の気持ち良さが伝わるんです」。

「前の日にカラオケで高音がよく出た翌日は調子いいですね」



ほかの誰かではなく美好家ゆきのお囃子で盛り上げたい

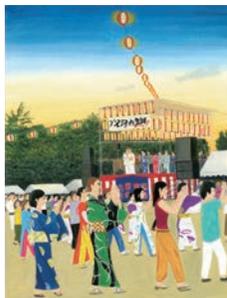


生演奏で踊る河内音頭の魅力を世界にアピール!



### 「やお80」映画祭2017 作品募集中!

上映時間はジャスト80秒。「やお映画部門」と「フリー映画部門」の2つ。10.8(日)消印有効まで応募受付。映画祭は11.18(土)、アリオ八尾4FのMOVIX八尾にて開催します! 詳しくはHPで<http://yao80.jp/>



### 表紙「八尾河内音頭まつり」

夏が来ると河内音頭や祭りのことを思うようになりました。大人たちは踊りを通して、子供たちに文化や伝統、一体となって楽しむこと、地元への愛情を育むことを伝えていきます。大きなグラウンドで開かれる八尾河内音頭まつりでは八尾だけではなく、市外やいろんな国の人が参加します。暮れゆく空の下、音頭に合わせ一つになって踊った時間は、記憶として人の中に残っていきます。(須飼秀和)

すがい・ひでかず 1977年明石市出身。日本の原風景や人びとの営みに映る郷愁を描く。著書に『私だけのふるさと』(2013年・岩波書店)など。絵本『うなぎのうーちゃん』(2014年・福音館書店)はこの5月に台湾版が出版された。

●Yaomania第21号・秋号は10月中旬発行

## 「八尾探Special」 八尾のちいさな旅

発行=一般社団法人八尾市観光協会  
編集=株式会社140B  
表紙絵=須飼秀和  
デザイン=山崎慎太郎  
印刷=図書印刷株式会社  
※記事の情報は2017年7月28日時点のものです。

# 今年は2日間! 第40回 八尾河内音頭まつり

真夏に比べると涼しくなった分だけ日が短くなるこの時期、刻々と変わる空の色を楽しみながら久宝寺緑地でとことん踊りに浸ってください。1日目には「世界記録に挑戦」のスペシャルプログラムも待っています。

9.9(土)・10(日) 10:00~20:30  
久宝寺緑地 陸上競技場・軟式野球場  
☎072-994-5741(八尾河内音頭まつり振興会)  
<http://www.yaokawachiondo.com/>

## 河内音頭大盆踊り大会

10日(日)16:00~20:30

陸上競技場

→河内音頭まつりのクライマックスタイム。伝承音頭とこども音頭大使の後は、八尾本場河内音頭連盟の師匠たちによるライブ。天龍小若丸、信貴一若、鳴門家寿美若、日吉家保若、美好家肇……8人が檣に上がる。



椿秀水師匠の熱演。太鼓は初音家豊若師匠



完全に日が落ちて秋の夜に。踊りも最高潮へ

## 鉄ちゃんでも手に入れたくなる、 会場限定発売の記念きっぷ。

当日は会場に交通関係のブースが出店し、グッズ販売などにぎわうが、近鉄の目玉は河内音頭を描いた台紙付きの記念入場券だ。「毎年、写真や絵画を用いた記念入場券を制作していますが、今回は絵の上手な八尾駅の駅員が担当しました。信貴山口駅と八尾駅を背景に人々が踊っている様子ですが、楽しい雰囲気でしょう」。記念入場券はまつり会場でしか買えないので、大勢の鉄道ファンがやって来るとか。「いろんな交通機関を利用して、ぜひ八尾まで足を運んでください」

下/記念入場券は2種類。カラフルで味わい深い絵柄だ。各150円  
右上/電車の運転が大好きという近鉄八尾駅の房谷嘉之駅長。  
「河内音頭も交通も人と人を結びますね」



## マルシェdeオンド

9(土)・10(日)11:00~20:00

陸上競技場

→日本各地の実力派グルメと競演するのは地元精鋭店の「うまいもん」。胃袋の許す限り回って食べよう。前号で紹介した小学校高学年生による「ジュニエコ」の出店もあります。



津山のホルモンうどん、富士宮の焼きそば……たしかに強豪ぞろい



近鉄八尾駅高架下ペントモールのお好み焼き[ぐー]も今年も出店。店主の佐野さん、気合入ってます



お刺身にちよこんと添えてある「紅たで」は全国の約8割が会場近くの久宝寺[カネ筒農園]で栽培されている。採れたてを使った清涼飲料水も人気



本番の「5分間」を檣で務めるのは、八尾本場河内音頭連盟会長の美好家肇師匠

## ギネス世界記録挑戦

9(土)17:00~

陸上競技場

→現在の世界記録は「まつりのべおか」で達成された2,748人。これを上回る世界一の瞬間に檣に集まろう! 条件は2つ。①民族的な衣装の着用(浴衣or着物、草履or下駄)。②5分間、参加者全員が同じ踊りを踊ること。小学校5年生以上の男女なら八尾市内外の在住、年齢上限は問わず参加可。ただし16歳未満は保護者または責任者(成人)の参加が必要。振興会事務局まで。

## 河内音頭グランプリ

9日(土)13:00~15:30

陸上競技場

→どの団体、どのグループの踊りが美しく揃って、印象的かを競う。写真は今年のグランプリ、太田ジャイナ音頭保存会の皆さん。水の流れをデザインした浴衣も涼しげ。



## ふれあいステージ

10日(日)10:00~18:30

軟式野球場

→ダンスコンテストや大道芸、そしてダイナミックなバンド演奏と、盛りだくさんの休日になること請け合い。



熱演する久宝寺中学校吹奏楽部。周囲は立ち見客でぎっしり

## 終了後は、寺内町へぜひ。

9.10(日)は14:30から久宝寺寺内町で「燈路まつり」が開催されます。願証寺でのライブにはじまり、18時になると願証寺や許麻(こま)神社の境内、寺内町に燈籠が点灯され、幻想的な雰囲気の中で町歩きが楽しめますが、「踊り足りない!」という人はぜひ願証寺山門での音頭を堪能してください。



☎072-924-6371(八尾市まちなみセンター)